



吉津かなさん (日本/フィリピン)

『6月1日』

吉津カナと申します。半年前にフィリピンから来ました。今日は「6月1日」についてスピーチします。

6月1日、この日は国連が定めた国際デーの一つです。何の日か皆さんは知っていますか？ Global Day of Parents、「国際親の日」です。

国連は Global Day of Parents を定めた理由として次のように言っています。「世界中のあらゆる民族、宗教、文化、国にかかわらず、子どもたちにとって両親は最初の養育者であり先生です。両親の存在は家族にとって精神的な支えであり、私たち社会の土台なのです」と。

親は、歩き方やアルファベットの読み方や書き方を教えたりマナーを教えます。さらに親は子どもの人格を作り正しい道を教えます。自分を犠牲にしてまで私たち子どもを献身的に育ててくれた親に対して、感謝の気持ちを忘れてはいけません。国連は世界中の人たちが親に敬意を表す日として、2012年に6月1日を「国際親の日」と決めました。

フィリピンでは皆がこの日を知っているわけではありません。わたしは昨年フィリピンの高校で教わりました。それを聞いて私の家族が6月1日をどのように過ごしたかを話します。

まず家族みんなで教会へ行ってお祈りをしました。そして一緒にレストランへ食事に行きました。レストランで子どものころの話や学校であったことを話して楽しく過ごしました。そのあと親にハグしキスをして花束をプレゼントしました。それから家族でおじいちゃんおばあちゃんのお墓に行きお花を供え、おじいちゃんやおばあちゃんのことを思い出しました。

私の家族は「母の日」や「父の日」や家族の記念日にも、このようにして両親に感謝を表しています。そのひときは私にとってかけがえのない幸せな時間です。

私は親への感謝を改めて考え敬意を表す Global Day of Parents の制定は、とても良いことだと思います。しかし一方で、Global Day of Parents があってもなくても、両親が私たちに対してしてくれた小さな積み重ねにいつも感謝をするべきだと考えます。お互いを愛し支え合う家族の絆は、お金で買うことができないとても貴いものです。

親がいない子どもはいません。どうか親がいることに感謝し、売ることも買うこともできないあなたの人生そのものに感謝してください。そして気づいてください、両親やそのまた両親のおかげで、あなたやあなたの家族が今も正しい道へ向かうということ。

これで私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。

